AUDI S3

AUDI S3 2016

WHEEL	ROTIFORM>>SPF F&R:19×8.5 Finish:Silver&Machined
TIRE	PIRELLI>>P-Zero F&R:255/35R19
SUSPENSION	KW>>Ver.3
AUDIO	ARC AUDIO>>PS8 PRO(Processor)/4200SE-Trad(Amplifier), MOREL>>Supremo(Front Speaker)/Hybrid402Slim(Front Speaker)/Ultimo Ti(Sub Woofer)

シンプル&クリーンな外観に内包された、超絶サウンド

欧州車を中心にあらゆるカスタムを手がけるアプローズの、本領発揮と言える1台である。とはいっても、飛び道具的に過激に攻めたわけではない。むしろ外観は控えめ。アウディS3の世界観をより一層際立たせたかのような、とびきり知的でクールな装いを持つ。過去にさんざんゴルフⅦを仕上げてきたアプローズ流のアウディカスタムだと思う。

その雰囲気を支えるのは足まわりにある。エアロ類は何も取り入れず、足とホイールだけ。手軽なようでいて奥の深いアプローチに対して、今回はまずrotiform（ロティフォーム）のSPFホイールを投入。ヘラフラッシュとかスタンス系で定番の同ブランドゆえ、攻めた造形や華やかな意匠がイメージされるが、SPFはぐっとシンプルだ。ボディカラーと調和するシルバー&マシンドといった仕上げと相まって、まるでメーカー純正オプションのようなたたずまいを持つ。とはいえ前後8.5J×19インチを投入し、アプローズが好むKWバージョン3を使って、きっちりと車高を落とす。ピレリP-ZERO（225/35R19）の、ショルダーの立ち具合まで見越したセッティングで、絶妙にツライチセットされている。

さらにアプローズの真骨頂は、インテリアにもある。初見では純正風情としているが、トゥイーターやウーファーにタダモノじゃない存在感が。ウルトラハイエンドなオーディオシステムが構築されていたのだった。フロントスピーカーとトゥイーター、そしてサブウーファーをモレルで統一。そこにアークオーディオのプロセッサーとアンプとを組み合わせて鳴らしている。とにかくド迫力で臨場感のあるサウンドを奏でながら、しかし音を絞っていてもクリアな音色が聴こえてきて、ドライブを邪魔しない。クリーンなエクステリアと同様、決して迫力一発ではない、実に懐の深い音色を奏でてくれる。

eS4_82_P098-107.indd 102 2019/09/25 12:10

冷静と情熱、最新モード

OWNER>>RYONOSUKE SAITO（齊藤綾之介サン）
CALL>>APPLAUSE（アプローズ）TEL:03-3330-2355 http://applause-audio.com
PHOTO>>RYOTA SATO（佐藤亮太／サッカス）
TEXT>>DAICHI NAKAMIGAWA（中三川大地）

ラゲッジスペースを犠牲にせず、フロア下にウーファーやアンプ、プロセッサなどを集約させた。こうしたきめ細かいオーディオ構築術もアプローズは得意とする。

Aピラーを加工してモレル製トゥイーターをインストール。乗員の着座位置を見越して、中高音が気持ち良く届くような室内設計とした。

モレル製スピーカーのフラッグシップであるSUPRIMOに交換。迫力のサウンドながらドア内張りは純正を使えるコンパクト設計も魅力。

ロティフォームにしては珍しいシックな雰囲気だが、2×5本スポークがリムエンドでつながり三角形を形成する凝った意匠を持つ。前後9.5J×19インチをKWバージョン3で合わせた。

eS4_82_P098-107.indd 103 2019/09/25 12:11